

第41回

御柱祭り

4月17日



迫力満点の宮入りの様子。担ぎ手の皆さんは汗を流しました。



本町に伝わる諏訪神社の「御柱祭り」が、盛大に練り広げられました。6年に1度開催され、今年で41回目となります。

御柱祭りの歴史

その起源は古く、約240年前の天明2年(1782年)までさかのぼります。智頭宿が大火に見舞われ、町の大半が焼失した際、火除けのためにと火伏せのご利益のある長野県諏訪大社の「御柱祭」の行事にならいい執り行われるようになったのが本町の御柱祭りと言われています。

開催までの道のり

新型コロナウイルス感染症の収束の見込みがつかない中、地区の役員の皆さんは何とか開催しようと昨年夏頃から各協議・準備を重ねました。

特に大きく変わったのが、祭りの花形の杉の神木を担いで練り歩き、町民へお披露目する「練り歩き」。

例年であれば各地区ごとに担ぎ手が約200人必要ですが、密になることを避け、手押し車を使用し必要人数を50人まで減らしました。その他にも、集客などでもコロナ対策を慎重に行なったということです。

歴史上初の開催方法で行われた今年の御柱祭り。宮総代の中村正直さんに話を伺いました。

